

# WCRLラリーオビディエンス エクササイズ内容

## Level 3

レベル3のコースは、コースデザインガイドラインに従って、それぞれこの文書に記されるエクササイズとレベル1及び2のエクササイズによって構成される。レベル3のボーナスエクササイズは、別文書に記されるレベル3ボーナスエクササイズのリストから選択される。

### 【止まって終わるエクササイズ】

止まって終わるエクササイズ（Stationary Exercises）は、静止した姿勢で終わるエクササイズである。エクササイズ内には動きのある要素も含まれる。



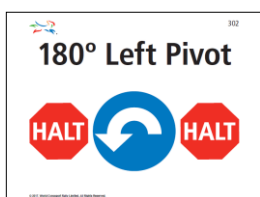
### 300. 停止—1歩、2歩、3歩前進する度に停止

ハンドラーと犬はそろって停止し、犬を座らせる。  
犬はヒールポジションで座る。  
一度犬が座ったらハンドラーは、  
→1歩前進して停止する  
→2歩前進して停止する  
→3歩前進して停止する  
ハンドラーは前進して停止する度に、犬に座るよう指示できる。  
犬は、ハンドラーとそろって前進し、停止の度にヒールポジションで座る。

**主要要素：繰り返し座る**

注釈：

- このエクササイズで要求される4回の停止（座る）の内の1回でも失敗した場合は、主要要素に準じない



### 302. 停止—180° 回れ左—停止

ハンドラーと犬はそろって停止し、犬を座らせる。  
犬はヒールポジションで座る。  
ハンドラーは犬にヒーリングを指示し、その場で180° 回れ左を行う。  
犬は、ハンドラーの軸回転に合わせて動き出し、ついて動く。  
方向転換完了とともに、ハンドラーと犬はそろって停止し、犬を座らせる。  
犬はヒールポジションで座る。

**主要要素：ハンドラーの回れ左に伴うヒーリング**

注釈：

- ハンドラーの回転が完了した時点で犬がまだ初めの停止でとどまっていた場合は、主要要素に準じない
- 犬が軸回転する必要はない



### 304 A/B. 前進中のタッテ犬から離れる／振り返ってヒールポジションに呼ぶーオスワリ

A.  
ヒールポジションのまま、ハンドラーは一時的に止まって犬を立たせて待たせる。

犬はヒールポジションで、座ろうとすることなく自発的に立ち姿勢を取る。

ハンドラーは犬から離れ、2枚目のサインまで進む。

犬は、ハンドラーにヒールポジションへと呼ばれるまでその場で立ったまま待つ。

B.  
ハンドラーは犬に対面するよう振り返って停止する。

ハンドラーはすぐに、（左右どちらからでも）ヒールポジションに来よう犬を呼ぶ。

犬は、ヒールポジションに来てハンドラーと同じ進行方向を向いて座る。

主要要素：

A. その場で待つ

B. ヒールポジションに来る

注釈：

- ・2枚目のサインは、1枚目のサインから前方約2.4m～3mに同じ向きに置かれる
- ・ハンドラーは、このエクササイズ中に犬に触れてはならない
- ・「ヒールポジションに来る」（主要要素）とは、ハンドラーの正面で座ることを経由せず直接ヒールポジションに向かって来ることをいう
- ・犬は、直接ハンドラーの左側へ向かって行っても、ハンドラーの後ろを回ってもよい



### 306 A/B. 前進中のタッテ犬から離れる／振り返るーフセーオスワリー正面に呼ぶーヒールポジションに戻る

A.  
ヒールポジションのまま、ハンドラーは一時的に止まって犬を立たせて待たせる。

犬はヒールポジションで、座ろうとすることなく自発的に立ち姿勢を取る。

ハンドラーは犬から離れ、2枚目のサインまで進む。

犬は、ハンドラーから伏せるよう指示されるまでその場で立ったまま待つ。

B.  
ハンドラーは犬に対面するよう振り返って停止する。

ハンドラーは、次の順で犬に指示を与える

→伏せる

→座る

→ハンドラーの正面に来て座る

→左右どちらからヒールポジションに戻る（どちらかはハンドラーの選択）

犬は、その場で伏せ、次いで座り、次いでハンドラーの正面に来て座り、そしてハンドラーの指示通りヒールポジションに戻る。

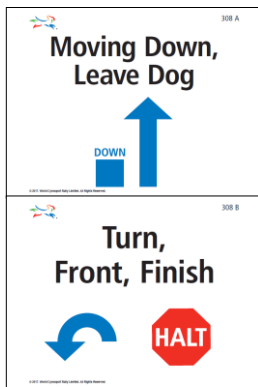
主要要素：

A. 立った状態で待つ

B. 遠隔で伏せる、座る

注釈：

- ・2枚目のサインは、1枚目のサインから前方約2.4m～3mに同じ向きに置かれる
- ・ハンドラーは、このエクササイズ中に犬に触れてはならない



### 308 A/B. 前進中のフセー犬から離れる／振り返る—正面に呼び—ヒールポジションに戻す

- A.  
ヒールポジションのまま、ハンドラーは一時的に止まって犬を伏せさせる。  
犬は、座って静止することなく伏せる。  
ハンドラーは犬を待たせ、2枚目のサインまで進む。  
犬は、ハンドラーから呼ばれるまでその場で伏せたまま待つ。
- B.  
ハンドラーは犬に対面するよう振り返って停止する。  
ハンドラーは、正面に来て座るよう犬を呼び。  
犬はハンドラーの正面に来て座る。  
ハンドラーは犬に、左右どちらかからヒールポジションに戻るよう指示する（どちらかはハンドラーの選択）。  
犬はハンドラーの指示通りヒールポジションに戻り、座る。

**主要要素：**  
A.伏せた状態で待つ  
B.ハンドラーの正面に来る

**注釈：**  
・2枚目のサインは、1枚目のサインから前方約4.5m～6mに同じ向きに置かれる



### 310 A/B. 停止—犬から離れる／背を向けたまま正面に呼び—左側からヒールポジションに戻す

- A.  
ハンドラーと犬はそろって停止し、犬を座らせる。  
犬はヒールポジションで座る。  
ハンドラーは犬を待たせ、2枚目のサインまで進む。  
犬は、ハンドラーに呼ばれるまでその場で座って待つ。
- B.  
ハンドラーは進行方向を向いたまま停止する。  
振り返ることなくハンドラーは、正面に来て座るよう犬を呼び。ハンドラーの肩は、犬がハンドラーの正面で座るまで進行方向に対してまっすぐ向けておく。  
犬はハンドラーの正面に来て座る。  
ハンドラーは犬に、左側で回り込んでヒールポジションに戻って座るよう指示する。  
犬は上記の通りヒールポジションに戻って座る。

**主要要素：**  
A.その場で待つ  
B.背を向けたままのハンドラーの正面に来る

**注釈：**  
・2枚目のサインは、1枚目のサインから前方約3m～4.8mに同じ向きに置かれる  
・ハンドラーは、犬を正面に呼び際に多少頭を振り返らせてもよい



### 312 A/B. 停止一犬から離れる／振り返る一横幅をあけたジャンプー正面でオスワリーヒールポジションに戻す

- A.  
 ハンドラーと犬はそろって停止し、犬を座らせる。  
 犬はヒールポジションで座る。  
 ハンドラーは犬を待たせ、ジャンプ台を超えて反対側にある2枚目のサインまで進む。  
 犬は、ハンドラーに呼ばれるまでその場で座って待つ。
- B.  
 ハンドラーは犬に正面を向くよう振り返って停止する。  
 その場で、両足をそろえたままハンドラーは、ジャンプを跳んで正面に来て座るよう犬に指示する。  
 犬は、バーを落としたり逃走したりすることなく、正しい方向からジャンプ台を通過する。  
 犬はハンドラーの正面に来て座る。  
 ハンドラーは犬を、左右どちらかからヒールポジションに戻す（ハンドラーの選択）。  
 犬はハンドラーの指示により、ヒールポジションに戻って座る。

#### 主要要素：

- A.その場で待つ  
 B.ハンドラーが横幅1.8m離れている状態で、正しい方向からジャンプ台を通過する

#### 注釈：

- ・1枚目のサインは、ジャンプ台から約3.6m～4.5m手前、左右どちらかに幅約1.8m離れた位置に置かれる
- ・2枚目のサインは、ジャンプ台の向こう約3.6m～4.5mの、1枚目のサインと同じライン上で向きに置かれる
- ・ジャンプを指示する際に、ハンドラーが、一方の足はそのままに、もう一方の足をジャンプ台から幅1.8mより内側に置いた場合には、記述通りにパフォーマンスされなかったとみなされる。ジャンプを指示する際にハンドラーが、両足共に幅1.8mより内側に入った場合には、主要要素に準じないとみなされる
- ・犬がジャンプしている間にハンドラーは、犬が正面に入って来やすくなるようわずかに犬の方を向いてもよい。ただし、犬に向かって進んではならない

## 【止まらずに次に進むエクササイズ】

止まらずに次に進むエクササイズ（Moving Exercises）は、動きのある要素で終わるエクササイズである。エクササイズ内に1つ以上の静止する要素が含まれることもあるが、静止の姿勢では終わらない。



### 350. 犬にハンドラーの周りを右回りさせて回れ左（×2回）

- ヒールポジションで前進し続けながら、以下の動作を行う。  
 →犬をハンドラーの外周を時計回り（右回り）してヒールポジションに戻るよう回らせ、ハンドラーは反時計回りに方向転換（180° 回れ左）する  
 →ハンドラーと犬は、そろって2～4歩前進し、上記の通りの“Left About Turn”をもう一度繰り返す  
 ハンドラーと犬は、元々の進行方向に戻り、そろって前進し続ける。

**主要要素：**ハンドラーの反時計回りの方向転換に伴い犬はハンドラーの周りを時計回りに回る（×2回）

#### 注釈：

- ・ハンドラーは軸回転となる



### 352. ヒーリングで3歩後退ー前進

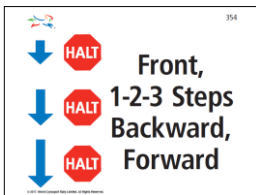
ヒーリング中、ハンドラーと犬は一時的に止まり、明確に少なくとも3歩分（約1.5m～1.8m）をヒーリングのまま後退し、その後進行方向を戻し再度ヒーリングで前進する。

犬は、大きく曲がることなく、また座ったり伏せたりすることもなく、ヒールポジションを維持しながらヒーリングで後退する。

#### 主要要素：ヒーリングで3歩後退する

注釈：

- ・ハンドラーは、後退前の一時停止の際に立たせる指示を与えることができ、また後退に次いで再度前進する際にヒーリングの指示を与えることができる
- ・エクササイズ始め及びエクササイズ終わりの一時停止は、前進と後退を転換するための移行であって、完全な停止ではない。また急激な停止であってはならない
- ・「ヒーリングで後退」は、普通に近い速度で、スムーズで流動的であること。3歩以上後退しても減点にはならない
- ・ヒーリングに対する減点（例：ぶつかる、大きく離れる、など）が前進と後退のどちらにも適用される



### 354. 正面でオスワリー1歩、2歩、3歩後退する度に正面でオスワリーヒールポジションに戻して前進

犬を正面に座らせると同時に、ハンドラーは（後退せずに）停止する。

犬は、ヒールポジションで座ることなく、正面に来て座る。

一度犬が座ったら、ハンドラーは犬に正面で座るよう指示し、

→1歩後退して停止する

→2歩後退して停止する

→3歩後退して停止する

ハンドラーは、後退する度に犬に正面で座るよう指示してもよい。

犬は、ハンドラーとそろって動き、ハンドラーの停止の度に正面で座る。

4回正面で座ったら、続いてハンドラーはヒールポジションに戻るよう指示し、犬がヒールポジションに到達すると同時に前進する。

犬は、ハンドラーの左側で直接か、ハンドラーの後ろを回ってのどちらかでヒールポジションに向かって行き、座ることなくハンドラーとそろって前進する。

#### 主要要素：繰り返しハンドラーの正面で座る

注釈：

- ・犬が最初に正面に座る前にハンドラーが後退すると減点となる
- ・このエクササイズで要求される4回の正面で座る内の1回でも失敗した場合は、主要要素に準じない



### 356. 正面でオスワリー犬が3歩後退ーハンドラーがヒールポジションに戻るー前進

犬を正面に座らせると同時に、ハンドラーは前進をやめる。

犬は、ヒールポジションで座ることなく、正面に来て座る。

犬が座ったら、ハンドラーは犬を立てて後退させる。

ハンドラーは犬に向かって進み、犬はハンドラーと対面し続けたまままっすぐに後退する。

犬をその場で立たせたまま、ハンドラーは犬の右側へ直接か犬の後ろを回ってのどちらかでヒールポジションに戻る。

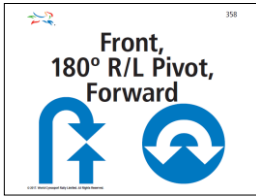
ヒールポジションに戻ると同時にハンドラーは、前進し続けながら犬にヒーリングを指示する。

犬は、ハンドラーとそろって前進する。

#### 主要要素：座ることなく3歩後退する

注釈：

- ・ハンドラーは犬を正面に呼び込む際に、4歩まで後退してもよい（後退しなくともよい）
- ・ハンドラーは、犬に向かって足を踏み出すことで犬を後退させてはならない。この場合追加指示とみなされる
- ・ハンドラーは、ヒールポジションに戻る前に犬に待たせる指示を与えてもよい



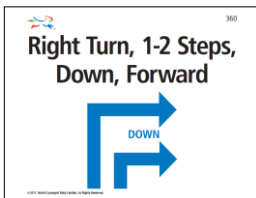
### 358. 正面でオスワリー右もしくは左に180° 軸回転—前進

犬を正面に座らせると同時に、ハンドラーは（後退せずに）停止する。  
犬は、ヒールポジションで座ることなく、正面に来て座る。  
犬が座った後、ハンドラーは右もしくは左に180° 軸回転し、犬はそろってヒールポジションに向かう。  
犬がヒールポジションに到達すると同時にすぐにハンドラーは前進を続ける。

**主要要素：**ハンドラーの軸回転に応じて動き出す

注釈：

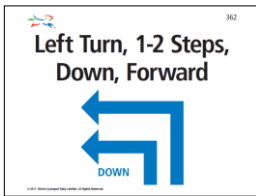
- ・犬が最初に正面に座る前にハンドラーが後退すると減点となる
- ・ハンドラーの方向転換は、軸回転か、もしくは半径約60cm～90cm以内であること



### 360. 右折—1～2歩進む—フセ—前進

ハンドラーと犬は90° 右折し、1歩もしくは2歩進んだ後ハンドラーは一時的に止まって犬を伏せさせる。  
犬は、座って静止することなくヒールポジションで伏せる。  
犬が伏せたらすぐに、ハンドラーと犬は、犬が伏せている状態から直接動き出すようにそろって前進する。

**主要要素：**方向転換後に伏せる



### 362. 左折—1～2歩進む—フセ—前進

ハンドラーと犬は90° 左折し、1歩もしくは2歩進んだ後ハンドラーは一時的に止まって犬を伏せさせる。  
犬は、座って静止することなくヒールポジションで伏せる。  
犬が伏せたらすぐに、ハンドラーと犬は、犬が伏せている状態から直接動き出すようにそろって前進する。

**主要要素：**方向転換後に伏せる



### 364. 停止—誘惑の中でタッテ—ハンドラーが後ろを回ってヒールポジションに戻る—前進

ハンドラーと犬はそろって停止し、犬を座らせる。  
犬はヒールポジションで座る。  
犬がヒールポジションで座ったら、ハンドラーは犬を立たせる。  
犬はその場で自発的に立つ。  
ハンドラーは犬を待たせ、約1.8m先まで離れ、犬に対面するよう振り返って停止する。  
ジャッジは犬を見ながら、ハンドラーと犬の間を通過して犬に向かって行き、犬のまわりを回ってハンドラーの横まで来る。  
ジャッジがハンドラーの横で止まったら、犬をその場で立たせたまま、ハンドラーは犬の後ろを回ってヒールポジションに戻る。  
ヒールポジションに戻ると同時にハンドラーは、前進し続けながら犬にヒーリングを指示する。  
犬は、ハンドラーとそろって前進する。

**主要要素：**その場で待つ

注釈：

- ・ハンドラーはこのエクササイズ中に犬に触れてはならない
- ・ジャッジは、ハンドラーと犬の間をどちらから通過してもよく、時計回りか反時計回りのどちらかで犬のまわりを回ってもよいが、腕の長さより犬に近寄ることはない





### 366 A/B. 前進中のタッテー犬から離れる／振り返るーヒールポジションに呼ぶー前進

A.  
ヒールポジションのまま、ハンドラーは一時的に止まって犬を立たせて待たせる。

犬はヒールポジションで、座ろうとすることなく自発的に立ち姿勢を取る。

ハンドラーは犬から離れ、2枚目のサインまで進む。

犬は、ハンドラーにヒールポジションへと呼ばれるまでその場で立ったまま待つ。

B.  
ハンドラーは犬に対面するよう振り返って停止する。

ハンドラーはすぐに、（左右どちらからでも）ヒールポジションに来るよう犬を呼ぶ。

犬はヒールポジションに来る。

犬がヒールポジションに到達すると同時に、ハンドラーは犬にヒーリングを指示する。

犬は、座ろうとすることなく、ハンドラーとそろって前進する。

**主要要素：**

**A. その場で待つ**

**B. ヒールポジションに来る**

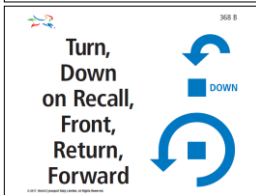
**注釈：**

- ・2枚目のサインは、1枚目のサインから前方約2.4m～3mに、同じ向きに置かれる
- ・ハンドラーは、このエク

ササイズ中に犬に触れてはならない

- ・「ヒールポジションに来る」（主要要素）とは、ハンドラーの正面で座ることを経由せず直接ヒールポジションに向かって来ることをいう

- ・犬は、直接ハンドラーの左側へ向かって行っても、ハンドラーの後ろを回ってもよい



### 368 A/B. 停止ー犬から離れる／振り返るー呼び戻し中のフセー正面に呼ぶーハンドラーがヒールポジションに戻るー前進

A.  
ハンドラーと犬はそろって停止し、犬を座らせる。

犬はヒールポジションで座る。

ハンドラーは犬を待たせ、2枚目のサインまで進む。

犬は、ハンドラーに呼ばれるまでその場で座って待つ。

B.  
ハンドラーは犬と対面するよう振り返って停止する。

ハンドラーは正面に来て座るよう犬を呼ぶ。

犬は勢いよく向かって来る。犬が向かって来ている間にハンドラーは、犬がエクササイズサインの1枚目と2枚目の中間あたりで伏せられるように指示を与える。

犬は、ハンドラーから1.8m以上の距離をとって、座って静止することなくすぐに伏せ、再度呼び戻される指示を待つ。

ハンドラーは正面に来て座るよう犬に指示する。

犬はハンドラーの正面に来て座る。

犬をその場で座らせたまま、ハンドラーは犬の右側へ直接か犬の後ろを回ってのどちらかでヒールポジションに戻る。

ヒールポジションに戻ると同時にハンドラーは、前進し続けながら犬にヒーリングを指示する。

犬は、ハンドラーとそろって前進する。

**主要要素：**

**A. その場で待つ**

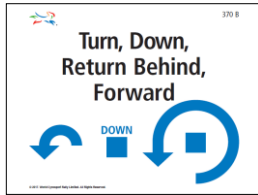
**B. 呼び戻し中に遠隔で伏せる**

**注釈：**

- ・2枚目のサインは、1枚目のサインから前方約7.5m～9mに同じ向きに置かれる

- ・犬がハンドラーの1.8mより近くで伏せた場合（ハンドラーは後退してはならない）は、主要要素に準じない

- ・ハンドラーは、ヒールポジションに戻る前に犬に待たせる指示を与えてもよい

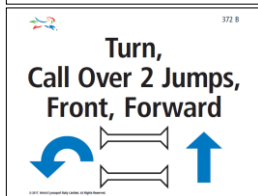


### 370 A/B. 停止—犬から離れる／振り返る—フセ—ハンドラーが後ろを回ってヒールポジションに戻る—前進

- A.  
 ハンドラーと犬はそろって停止し、犬を座らせる。  
 犬はヒールポジションで座る。  
 ハンドラーは犬を待たせ、2枚目のサインまで進む。  
 犬は、ハンドラーから伏せるよう指示されるまでその場で座って待つ。
- B.  
 ハンドラーは犬と対面するよう振り返って停止する。  
 ハンドラーはすぐに犬を伏せさせる。  
 犬が伏せたら、犬をその場で伏せさせたまま、ハンドラーは犬の後ろを回ってヒールポジションに戻る。  
 ヒールポジションに戻ると同時にハンドラーは、前進し続けながら犬にヒーリングを指示する。  
 犬は、伏せている状態から直接ハンドラーとそろって前進する。

- 主要要素：**  
 A.座った状態で待つ  
 B.遠隔で座った状態から伏せる

注釈：  
 ・2枚目のサインは、1枚目のサインから前方約3m～4.5mに同じ向きに置かれる



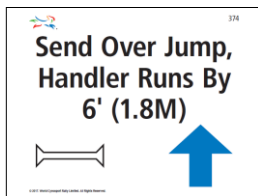
### 372 A/B. 停止—犬から離れる／振り返る—ジャンプ2台を経由して呼び戻し—正面でオスワリー—ヒールポジションに戻して前進

- A.  
 ハンドラーは、犬をジャンプ台の中心に向けて犬とそろって停止し、犬を座らせる。  
 犬はヒールポジションで座る。  
 ハンドラーは犬を待たせ、ジャンプ台の横を通って2台目のジャンプ台の反対側にある2枚目のサインまで進む。  
 犬は、ハンドラーに呼ばれるまでその場で座って待つ。
- B.  
 ハンドラーは犬に対面するよう振り返って停止する。  
 ハンドラーは犬に、ジャンプを跳んで正面に来て座るよう指示する。  
 犬は、バーを落としたり逃走したりすることなく、正しい方向から各ジャンプ台を通過する。  
 犬はハンドラーの正面に来て座る。  
 ハンドラーは犬に、ヒールポジションに戻るよう指示し、犬がヒールポジションに到達すると同時に前進する。  
 犬は、ハンドラーの左側に直接か、もしくはハンドラーの後ろを回ってのどちらかでヒールポジションに向かい、座ることなくハンドラーとそろって前進する。

- 主要要素：**  
 A.その場で待つ  
 B.正しい方向からジャンプ台2台を通過する

注釈：  
 ・1枚目のサインは、1台目のジャンプ台から約2.4m手前の、犬がジャンプ台の中心に位置できる場所に置かれる  
 ・2台目のジャンプ台は、1台目のジャンプ台の直線上約3.6m～4.5m離れた位置に置かれる  
 ・2枚目のサインは、2台目のジャンプ台の向こう約3m～3.6mの、2台のジャンプ台の中心にハンドラーが位置できる場所に置かれる





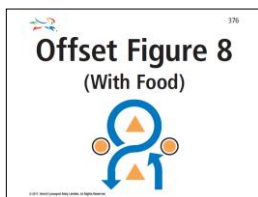
### 374. ジャンプへの送り出しーハンドラーは1.8m横を並走

ハンドラーは犬にジャンプを指示し、その後、ジャンプ台の右1.8mにあるハンドリングラインに沿って走る（加速の速度以下にならないこと）。ハンドラーは、ジャンプ脇を通過したのち、通常の色度に戻る。ハンドラーは、次のエクササイズに向かってヒーリングを続ける。犬は、バーを落としたり逃走したりすることなく、正しい方向からジャンプ台を通過する。犬は、ハンドラーが次のエクササイズを始める前にヒールポジションに戻る。

**主要要素：**ハンドラーと1.8mの幅をとって正しい方向からジャンプ台を通過する

注釈：

- ・ハンドリングラインは、ジャンプから離れておくべき幅1.8mの距離を示すために地面に引かれている。或いは、サインの設置位置で幅1.8mが示されている場合もある。ラインは通常、ジャンプ台に対して垂直に、ジャンプ前4.5m以内からジャンプ後1.5m以内で引かれている
- ・犬がハンドラーより速い場合、犬を呼び戻すことは減点にはならない



### 376. オフセットの8の字（誘惑のフードあり）

ハンドラーと犬は、1つ目のコーンを左に見て8の字を始める。ハンドラーと犬は、2つのフードボウルの間を通過する。この時犬が、歩くべき8の字ラインからフードボウルに向かって外れる（脱線）、またフードボウルに触れたり、フードボウルのおいを嗅ぎに8の字ラインから外れる（注意散漫）、さらにフードボウルを挟んで分かれて歩くことのないこと。続いて、2つ目のコーンを、脱線したり注意散漫になることなく、右に見たまま周りを回る。もう一度、脱線したり注意散漫になったり、またフードボウルを挟んで分かれて歩くことなく、2つのフードボウルの間を通過し、1つ目のコーンを左に見ながら歩き続けてこのエクササイズは終了する。

**主要要素：**指定のパターンでフードボウルとコーンの周りを歩く

注釈：

- ・それぞれ1/4カップ程度の犬用のフードを入れた2つの犬用フードボウルと、2つのコーンがひし形状に配置される（前後のコーンの間隔は3m、左右のフードボウルの間隔は1.5m）
- ・2つのフードボウルは、小さくても直径15cmあるものとする
- ・チームは、中心（2つのコーンの間）を2回通過する
- ・このエクササイズは、ジャッジの裁量により、どの向きにでも設置され（例えば、進行方向に対して平行、垂直、または斜め）、手前のコーンは、コースマップ上で、またコースではサインを置くことで明確に示されている